

東日本大震災後の東北運輸局の観光 に関する取組みについて



正しい観光情報の発信

東北観光復興ポータルサイトによる情報発信

東北の観光に関わる正確な情報等を発信するため、復興関連情報に特化したポータルサイト開設。

開設(4月29日)から12月末日までのアクセス数・・・57,025件
※うち、12月1ヶ月におけるアクセス数・・・ 7,265件

海外メディアを通じた情報発信

東日本大震災で被害を受けた東北を応援するため、海外からのメディアを招請し、震災後における東北の観光スポット等取材し、安全性の理解を深め、正確な情報を発信することで、東北への今後の着実な誘客に繋げる。

<VISIT JAPAN東北 復興祈念 2011年度事業>

- 主 催：東北運輸局
東北観光推進機構
- 期 間：2012年 2月 3日～ 10日
- 参加者：海外から旅行エージェント(31名)
及びメディア(18名)
- 取材地：4コースで震災後の東北の観光
スポット等を視察・取材



主な招請事業

- 台湾旅行エージェント・メディア招請
2011年 7月23日～28日、
9月27日～10月1日
- シンガポールメディア招請
2011年 8月 3日～ 8日
- 中国旅行エージェント・メディア招請
2011年 8月25日～30日、
10月 2日～ 6日
- 韓国旅行エージェント・メディア招請
2011年 9月26日～29日、
10月27日～30日
- 香港旅行エージェント・メディア招請
2011年10月26日～31日、
2012年 1月10日～15日
- タイメディア招請
2011年12月17日～23日
- VISIT JAPAN東北 復興祈念
2011年度事業
2012年 2月 3日～10日

東北の安全性について理解を深めるとともに、
正確な情報を海外において発信。

東北の観光復興に向けた官民一体の取組



ワーキンググループの開催

観光復興にスピード感を持って取り組むため、東北観光推進機構・東北経済連合会・仙台商工会議所・観光関係各団体をメンバーとしたワーキンググループを設置(3月29日)し、以後週1度のペースで会合を開き、情報共有や復興に向けた取り組みについて議論した。

主な取り組み

観光復興スローガン、ロゴの決定

復興に向けた連帯の象徴となるスローガンとロゴを決定し、缶バッジ・ステッカーを作成するとともに運輸局ホームページからダウンロードできるようにした。



OJR東日本とのタイアップによる情報発信

・首都圏を中心としたポスター展開、山手線への中吊り広告、「トランヴェール」誌への広告を掲載した。



内閣総理大臣訪問

東北各県の女将が、東北の元気と東北への誘客をアピールするため総理へ訪問した。



東北6県物産展(首都圏ジャック)

首都圏主要6駅において、東北6県の物産展を開催し、誘客と風評被害の払拭に向けたPR等を展開した。



観光需要創出に向けた事業への支援



観光需要を喚起するため、地元関係者と連携して復興に資する事業に対して支援

<実施事業の例>

個別事業名	時期	地域	概要
国内外からの誘客促進事業	11月3日～6日	青森市	各地域や郷土芸能を一堂に会したイベントを開催し、青森の観光をPR
大文字まつり+夢灯り	8月16日	平泉町	慰霊を目的に、毎年開催される「大文字まつり」と地元の関係者による手作りの「夢灯り」の製作・点灯を支援
食の賑わい博覧会連携イベント事業	10月1日～20日	秋田市	「秋田「食」のにぎわい博覧会」の実施を支援するとともに、スマートフォンを利用した観光ルートを提案
みやぎ ひかりのプロジェクト ～鎮魂、そして温かい絆への感謝を込めて～	23年8月～24年2月	宮城県全域	県内における「光」をテーマとした主要イベント(※)の実施をサポート ※「六魂祭」、松島「海の盆」、「松島紅葉ライトアップ」、「光のページェント」等「鎮魂、希望の光、そして絆 感謝」というプロジェクトテーマを発信
「祈りの旅」に係る着地型旅行商品造成事業	8月上旬～16日	酒田市、鶴岡市、山形市、大石田町、大江町ほか	「祈りの旅」の着地型旅行商品化(1)「出羽百観音」のブランド化 (2)「出羽百観音」に係る企画商品の開発 ・祈りと癒しをテーマにした誘客イベントに対する開催支援
日本の元気再生PROJECT Project JAPAN in FUKUSHIMA ～始まりのAIZU～	6月26日	会津若松市	「日本の元気再生PROJECT Project JAPAN in FUKUSHIMA」において、終了間際に350本の絵ろうそくを点灯させ、会津の伝統文化を紹介するとともに、震災で犠牲となった方々を鎮魂

福島県の実施事例 日本の元気再生PROJECT



350本の会津の絵ろうそくを活用して会津の伝統文化紹介するとともに、震災で犠牲になった方々を鎮魂する取り組み

宮城県の実例 みやぎひかりプロジェクト



「鎮魂、希望の光、そして絆 感謝」というプロジェクト

岩手県の実例 大文字まつりと夢灯り



震災による犠牲者の鎮魂と慰霊を目的に、毎年開催される「大文字まつり」と地元の方々による手作りの「夢灯り」の制作・点灯を支援する取り組み

秋田県の実例 食のにぎわい博との連携



食のにぎわい博覧会に来た観光客をスマートフォンを活用して周遊させる取り組み

山形県の実施事例 祈りの旅に関する商品造成



「出羽百観音」最上三十三観音、庄内三十三観音、置賜三十三観音のブランド化と着地型商品の組み合わせた取り組み

青森県の実例 国内外からの誘客促進事業



韓国・台湾からの誘客促進、中部地方からの誘客促進等を実施。また各地域の物産と郷土芸能を一堂に会してイベントを開催する取り組み

観光客の受入環境の整備

外客受入地方拠点

平泉、仙台・松島、会津若松の3地域を「外客受入地方拠点」として選定。
国・地方公共団体・民間事業者等が連携し、受入環境の整備・充実を総合的に推進。



観光振興を目的とした 受入環境整備事業

大震災による風評被害を払拭し、観光振興により地域を元気にするため、夏祭りなど、観光客が集中するイベントの実施に際し、外国人観光客の受入環境整備を緊急に実施。



受入環境整備サポーター 派遣事業

東北地方に留学している外国人学生を受入環境整備サポーターとして、地域の観光地に派遣し、サポーターの活動により、外国人旅行者の誘客と観光の振興を図る。



言語バリアフリー化事業

交通拠点から目的地に至るまでの行程において、多言語対応等を実施することで外国人旅行者の移動を容易化し、言語バリアフリーな移動環境を実現する。



地域再生のための観光業支援事業



東日本大震災及びその後に生じた風評被害により甚大な被害を受けた地区・集落を対象に、地域の核となる市町村と協働し、コミュニティを支える観光業を支援する観点から、地域の課題、ニーズ、問題意識を踏まえた相談・アドバイスを行い、地区・集落単位での地域の再生を図る。

【現状の課題】

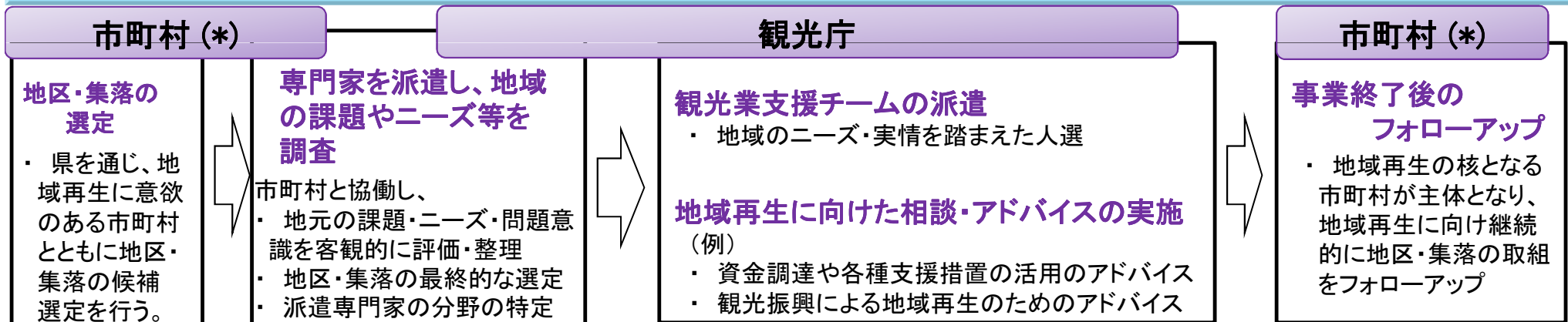
- ◆ 東日本大震災により甚大な被害を受けた地域の再生には観光業の早期復興が喫緊の課題
- ◆ 被災地等によっては地域再生のノウハウや人材が不足
- ◆ 被災地等からも観光業の再生支援に関する要望が多い

【施策の内容】

- 専門家を派遣し、地域の課題やニーズ等を調査
- 観光業支援チームの派遣
- 地域再生に向けた相談・アドバイスの実施

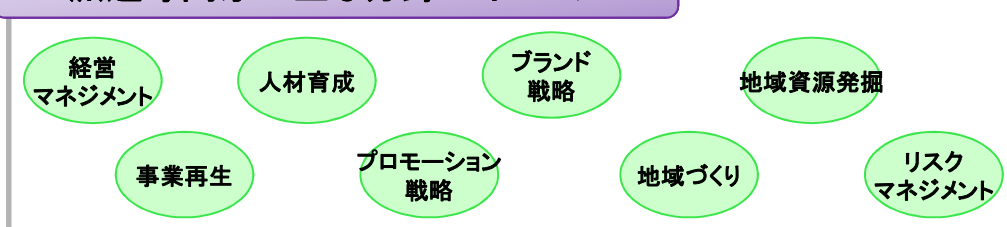
県名	市町村名	地区・集落名
岩手県	久慈市	小袖地区等
	岩泉町	龍泉洞地区等
	平泉町	長島地区等
宮城県	仙台市	秋保温泉・作並温泉
	松島町	松島海岸
	白石市	中心市街地地区等
福島県	いわき市	いわき湯本地区等
	福島市	高湯温泉
	猪苗代町	葉山地区等

事業の進め方のイメージ（地域再生に意欲のある地区・集落を対象）

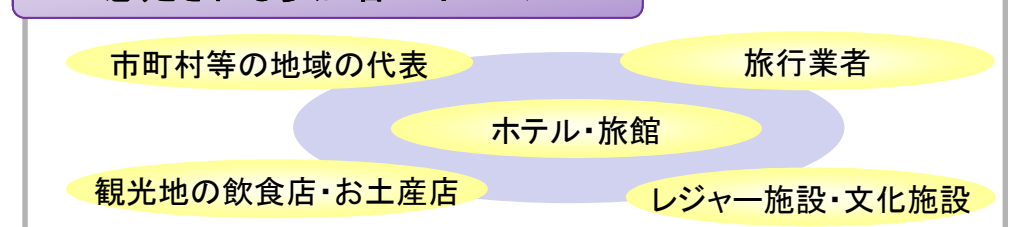


* 事業の主体は市町村であるが、県に対しても地区・集落の選定や事業終了後のフォローアップへの協力を依頼

派遣専門家の主な分野のイメージ



想定される参加者のイメージ



東北観光博の概要

概 要

東北地域全体を一種の博覧会会場と見立てて、短期的には、大きく落ち込んでいる東北地域への旅行需要の喚起、中長期的には地域が主体となった新たな観光スタイルを実現するため、官民を挙げた一体的な取組みを実施する。

具体的には、東北地域への送客を強化するとともに、東北の主要な観光地域30カ所程度を核となる「ゾーン」として設定し、「地域観光案内人」の配置、地域独自の観光コンテンツの提供等を行い、地域が主体となった持続的な取組みの定着を図る。

東北観光博の5つの柱

多様な旅行者に対して自由度の高い旅行環境の確保

被災地の復興と人的交流の促進

地域の人々と観光客が直に接することによる相互理解深化

東北の観光振興を盛り上げる国民運動の形成

観光情報の統一的・効果的な情報発信

実施する取組み例

(ゾーン内の取組み)

- 旅行者が多様な旅行プランを組み立てられる 地域独自の滞在プログラム（着地型商品）の企画・提供
- 滞在プログラム（着地型商品）を普及促進し、リピーターやファンを獲得するための「地域観光案内人」の配置

(全体的な取組み)

- 旅行会社、交通事業者等との連携による東北地域への送客強化（滞在プログラム（着地型商品）の普及等支援を含む）
- 地域の方々と旅行客の出会いを創るための「東北観光博パスポート」等の導入と「東北観光博公式ガイドブック」作成
- 被災地域における交流の促進を図るための ボランティアツアー等の実施
- 東北の観光振興への応援を国民運動として進めるための「東北観光博サポーター」制度の導入
- 東北地域の観光情報の一元的な提供を行う「東北観光博ポータルサイト」の作成
- 東北地域で将来にわたり活用可能なIT環境の構築
- 媒体等を活用した広報活動

実施期間

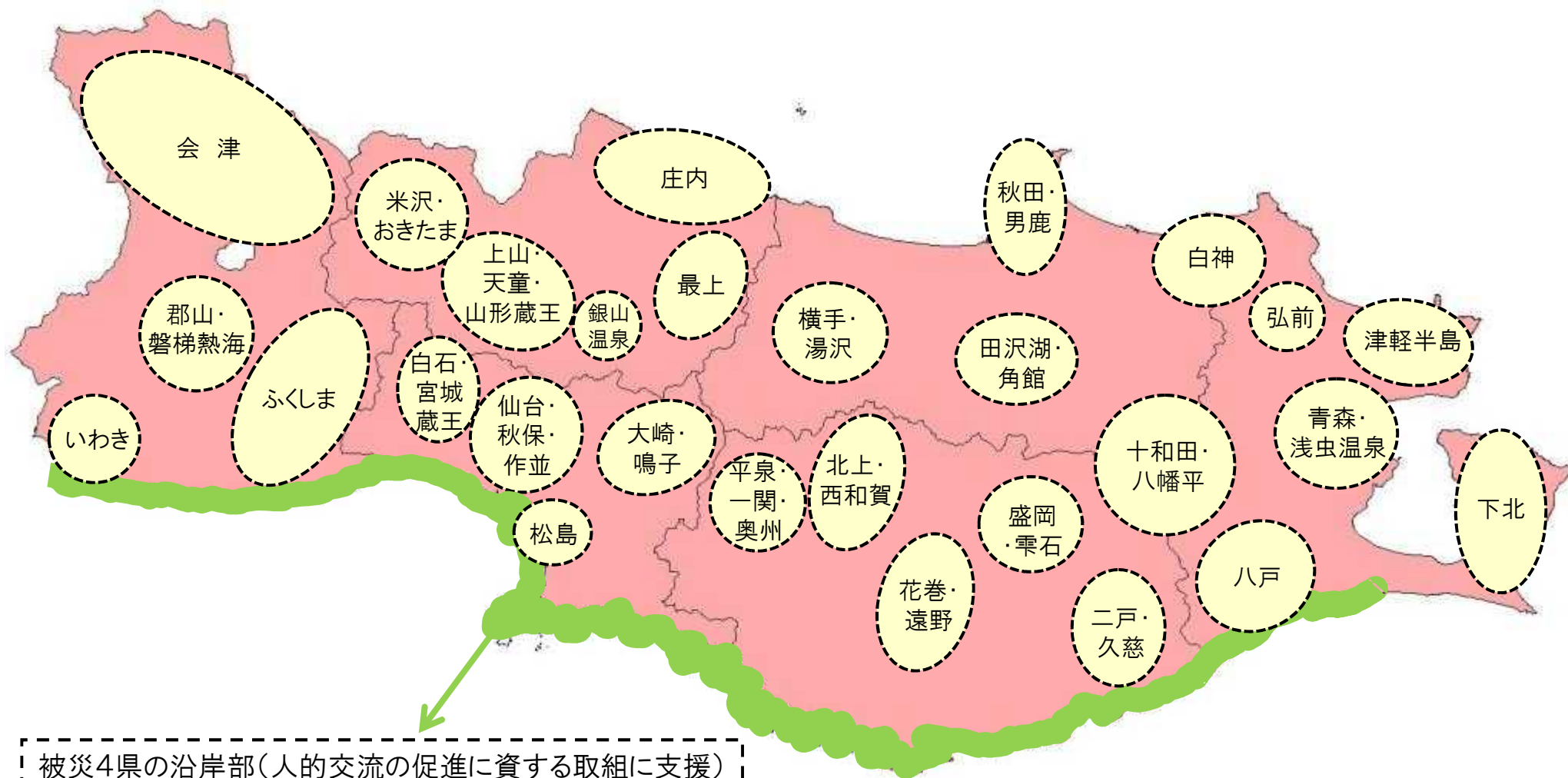
平成25年（2013年）3月末まで

※平成24年1月30日からプレ実施、3月18日から本格実施

東北観光博における「ゾーン」

○東北の主要な観光地域30箇所程度を核となる「ゾーン」とする。

○「被災4県の沿岸部」については、被災地の復興と人的交流の促進に資する取組を支援する。



○「ゾーン」を核として一定の広がりを持つ圏域として「エリア」を設ける。

「エリア」については、各県において設定する。

※ゾーンについては、開催期間中に状況を見ながら柔軟に変更等の対応を実施